

令和 2 年度 大阪府立吹田高校 学校教育自己診断 (生徒・保護者) 集計結果の分析と 今後の取り組み

【はじめに】

今年度も、生徒並びに保護者の皆様のご意見を反映し、より良い学校運営に資するため、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中にも関わりませず、概ね7割の保護者の皆様からご回答をいただきました。

その集計結果と今後の取り組みについてまとめましたので、お届けいたします。

【資料の見方】

吹田高校では、他の大阪府立の高等学校と同じく年度当初に「学校経営計画」を策定し、その実現に向けて、教職員が力を合わせ、学校教育に取り組んでいます。

そこで、今年度の学校教育自己診断の結果等につきましても、その「学校経営計画」とリンクした形で整理しました。

*「学校経営計画」は本校のホームページ（以降、HPと記します）に掲載しておりますので、あわせてご覧ください

本資料の見方は、以下の通りです。

- ① 【「学校経営計画」の今年度の重点目標】
- ② 【その項目に関わる質問とアンケート集計結果】
- ③ 【アンケート結果に対する学校の受け止め方（分析）】
- ④ 【来年度以降の指導の方向性（対応）】

1 遅刻・頭髪・登下校時のマナー指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかとい ええばそう 思う	どちらかとい ええばそう 思わない	そう思わな い	肯定的 回答率
1	本校では、遅刻居残り指導などを通して、遅刻をしないように意識を高めてほしいと考えています。あなたは、毎朝遅刻をしないように意識をしていますか。	1年	81.1%	17.3%	0.8%	0.8%	98.4%
		2年	75.1%	18.8%	2.4%	3.7%	93.9%
	(全学年 肯定的回答率平均 96.1 %)		3年	78.0%	18.1%	0.8%	3.1%
2	本校では、交通マナーの向上のため登下校時の安全指導や交通安全講習会などを行っています。あなたは登下校時に、交通マナーを守るように努めていますか。	1年	67.1%	31.3%	0.8%	0.8%	98.4%
		2年	58.9%	35.8%	4.1%	1.2%	94.7%
	(全学年 肯定的回答率平均 96.5 %)		3年	66.3%	30.2%	3.5%	0.0%

【学校の受け止め方（分析）】

質問1に対して、全学年での肯定的な回答が95.1%、否定的な回答が4.9%となりました。多くの生徒が、遅刻をしないための意識を持って行動してくれていることが伺え、遅刻の回数も大幅に減っています。

基本的には現在の指導を継続してまいります。生徒が「遅刻指導がなくても時間を守る」という当たり前のことを主体的にできるようになるのがめざすところです。

質問2につきましても、全学年での肯定的な回答が94.4%と、多くの生徒が“交通マナーを守る意識”を持って行動してくれていることが伺えます。一方で、意識の低い生徒もいるため、登校指導の範囲を広げ、下校指導も行い、一昨年度に始めた交通違反を繰り返す生徒には自転車通学を禁止にする指導を継続していきます。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

年々遅刻が減少し、交通マナーも数年前に比べて明らかによくなっています。

身だしなみの指導については、一定の成果をあげているピアス指導、スカート指導。昨年度の2学期から始めて、充実させる必要のある化粧指導等を「指導をされ、ペナルティーを科されるから」ではなく「自分の成長」や「周りへの迷惑」を考えて生徒が主体的に守っていけるように働きかけていきます。

めざすところは「じっくりと生徒と話す指導」であり、「生徒自身が自らを律することができる学校」です。このことを念頭に置きつつ、生徒の現状に合った指導を続けていく必要があります。

誰かに言われなくても TPO に応じた高校生らしい服装や行動ができるように、また、その日々の取り組みが、希望する自己実現・進路実現につながっていくように、生徒の自覚ある行動と想像力に期待します。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
1	本校では、生徒が遅刻した場合（通院などの特別な場合を除く）、その日の放課後に居残り指導（書写500字または1,000字＋反省文200字＋生徒との話し込み）を行っております。これにより遅刻は減少傾向にあります。これらの指導について、ご理解いただけますか。	65.4%	25.5%	6.1%	2.9%	91.0%
2	本校では、生徒が髪を染色した場合、是正までの期日を約束し、それが守れなかった場合に再登校指導を行っております。これにより、著しく染髪した生徒はいなくなりました。これらの指導について、ご理解いただけますか。	70.1%	22.8%	5.3%	1.8%	92.9%
3	府立高校では、携帯電話の校内での使用は『原則禁止』となっておりますが、本校では休憩時間などでの使用を含め、校内での使用そのものは禁止していません。この点を踏まえ、授業中に携帯電話を使用した場合（鳴った場合を含む）は、「預かり指導」を行っております。これらの指導について、ご理解いただけますか。	77.6%	20.3%	1.9%	0.2%	97.9%

【学校の受け止め方（分析）】

本校で行っている遅刻、頭髮、携帯電話の指導について、どの指導内容についても肯定的な回答が92%以上であったことより、非常に多くの保護者の皆様が本校の指導にご理解をいただけていることが伺えます。

アンケート結果を受け、これらの指導を継続的に展開するとともに、より一層多くの保護者の皆様にご理解いただけるよう、より良い指導方法を模索し、指導の経過や経緯についてもご連絡、ご報告することを心掛けていきたいと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

遅刻や違反行為については、当然の規範としてしっかりと定着するまで、現在の指導を継続すること、より良い指導法を考えていくことが必要だと思っています。指導に際しては、もちろん、ペナルティを科すことが目的ではありません。現在も心がけていることですが、ペナルティを科したから“はい、これで終わり”ではなく、時間を惜しまずにしっかりと説諭を行い、なぜ指導を受けているのか、該当生徒にきっちりと納得させること、安易な指導にならないことが不可欠だと認識しています。

ペナルティがなくても、生徒自らが自分を律し、また、自分の成長を考えて、時間を守りルールを守るという当たり前のことができるように、今後も丁寧な指導を続けていきたいと考えています。引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

2 学校行事・部活動のさらなる充実・活性化

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
3	あなた自身は、文化祭、体育祭、遠足などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか。	1年	54.0%	36.1%	6.0%	4.0%	90.1%
		2年	42.9%	44.1%	10.2%	2.9%	86.9%
	(全学年 肯定的回答率平均 87.5 %)	3年	47.1%	38.5%	10.1%	4.3%	85.6%

【学校の受け止め方（分析）】

全学年での肯定的な回答が約 87.5%となり、R1 年度 85.5%、H30 年度 85%、H29 年度 85%、と過年度と比較して微増となっています。

今年度に関しては、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえて文化祭が中止、体育祭が学年ごとに時間を短縮して分散開催という形での実施を学校として選択しました。行事開催への生徒からの要望もあった中でこのような形態での実施を余儀なくされたため、当初は行事の満足度の低下が予想されましたが、与えられた環境の中で学年ごとに工夫を凝らすことで少しでも前向きに行事に取り組めるよう教員生徒ともに努力しました。結果的には、例年とは違う状況がある意味前向きにとらえて行事を運営することができたことが、最終的な生徒の満足度向上に寄与したのではないかと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

依然としてコロナウイルスの感染拡大は終息の兆しを見せず、最大限安全に配慮した形での行事運営というものを意識する必要性がこれまで以上に増していると感じています。これまでのような学校行事の企画、開催というものは今後難しくなることが予想されます。学校の行事予定も、社会情勢に即したものと変化していくことになるかと思えます。

とはいえ、学校行事というものが生徒の成長や自己実現の大きな要因となっていることは紛れもない事実であります。生徒会部としましては、社会的な状況の変化を受け入れた上で「置かれた状況の中で自分たちに何ができるか」ということを生徒たちとともに検討していきたいと考えていますし、「0 から 1 を作る作業」というものを生徒たちに経験してほしいと思っています。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
4	学校の部活動は活発だと思いますか。	1年	46.7%	37.0%	9.8%	6.5%	83.7%
		2年	33.7%	39.9%	16.9%	9.5%	73.7%
	(全学年 肯定的回答率平均 76 %)	3年	35.3%	35.3%	20.9%	8.5%	70.5%

【学校の受け止め方（分析）】

数値だけを追いかければ、肯定的な回答は約 76%で、R1 年度 70%、H30 の 80%、H29 の 77%となっており、さほど大きな変化はないと捉えています。部活動の加入率は 54.7%となり、R1 年度が 55.7%、H30 が 48.9%、H29 が 46.2%と直近 3 年間では上昇傾向にあります。（5 月時点での数値）

「部活動が活発かどうか」という質問に対しての生徒の判断基準は、活発なクラブの様子を、【見たり・聞いたり・感じたり】しているかどうかだと思います。自身が所属するクラブ活動に一定の満足感を得ている場合は、その活発な活動を【見たり・聞いたり・感じたり】しているので、「活発である」と答えるでしょうし、クラブに加入していない生徒であっても、クラブに加入している友人やクラスメイトの精力的な活動を【見たり・聞いたり・感じたり】していれば、「活発である」と答えるかもしれません。

「活発でない」と答える生徒の多くは、そもそも本校の部活動に興味・関心がなかったり、精力的に部活動に励んでいる友人が身近にはいないので、クラブ活動の様子を【見たり・聞いたり・感じたり】しておらず、そのような答えになるのかもしれません。

いずれにせよ、「本校の部活動をより活発にさせるためには」という根本的な議論も当然必要ですが、同時に、現在、活発に活動しているクラブの様子を、多くの生徒に知ってもらうような取り組みも重要だと感じています。その取り組みを進めることで、クラブに加入していない生徒も、クラブ活動の様子を【見たり・聞いたり・感じたり】することができるのではないかと思います。

クラブ員には、自身のクラブ活動に対する満足度についても、毎年調査しています。（以下「満足度調査」という。）これは、「量」だけではなく、「質」の部分についても、見ていくことが重要ではないか、という考え方からです。その調査の結果、今年度も約 84%の部員が、現在の部活動について肯定的に捉えてくれていることがわかりました。

加入率は、決して高くないものの、実際の活動をしている部員の大多数が、この調査により、日頃の活動について満足してくれていると考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

クラブ部員の活動の様子を、他の多くの生徒に知ってもらうための手段として、始業式・終業式での表彰や、ホームページ上でのクラブのブログ・SNS の活用などが挙げられます。

また生徒会執行部やクラブ員、部顧問で壁新聞や試合予定・結果の掲示を行うことも有効でしょう。このように、他のクラブで頑張っている生徒の活動に関心をもてるような機会を、生徒の皆さんに提供できるような取り組みを推進していきたいと思っています。

とはいえ、新型コロナウイルス感染症対策を行った上での活動が次年度以降も必須になるため、活動内容や活動時間については、時間をかけて慎重に検討していく必要があると考えています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
8	本校の文化祭、体育祭は生徒が自ら進んで取り組んでいると思われませんか。	27.7%	59.4%	11.0%	2.0%	87.0%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が今年度は87%となっており、R1年度の約90%、H30年度の約90%、H29年度の90%と比較しても概ね横ばいの結果となりました。

質問項目に関する保護者の方々の回答の肯定率は、子どもたちも学校生活への満足度と相関関係にあると考えます。

今年度はコロナウイルス感染症への感染対策を十分に行った上で、体育祭のみ学年ごとに日程を分けて開催いたしました。実施時間や競技数は例年よりもかなり限定的なものにはなってしまいましたが、その一方で学年ごとに少しでも生徒たちが楽しめるように、例年とは違った工夫を行いました。生徒の行事への肯定率の上昇が保護者アンケートの数値にも影響を与えているものと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

前述したように保護者の方々の行事への意識は「子どもが学校行事を肯定的にとらえているかどうか」という点に大きく影響を受けると考えています。

とすると、学校として一番注力すべきは「生徒にとって有意義な学校行事の運営」であると考えます。社会情勢に即した安全な行事運営が求められるため、本当の意味で生徒が望む形での行事の実施には少し時間がかかるかと思いますが、生徒たちの「自主性」をはぐくむことができる学校行事を今後とも引き続き検討してまいります。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
9	本校の部活動は、活発だと思われませんか。	30.5%	53.0%	13.8%	2.7%	83.5%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が約84%で、R1年度約82%、H30年度の83%、H29年度約80%と比較しても、概ね横ばいとなっています。本校の部活動は運動系14、文化系13、同好会1つ、合計28種類あります。競技の特性や部員の状況を踏まえながら、個々のクラブの活動方針に即して部活動が実施されており、平日・休日を問わず、練習や試合をしているク

ラブもあれば、「平日のみ」や「週2日」というような活動形態をとっているクラブもあります。

こういった活動形態の違いがありますので、お子様がどのクラブに加入しているのかによって、保護者の皆様の感じ方も違ってくるように思いますが、その中で、昨年度に引き続き、肯定的な回答をいただき、ありがたく思います。

一方で、クラブ加入率から見ても、少し向上したことを嬉しく思います。1年生のみのクラブ加入率で見ると約61%であり、R1年度の約56%、H30年度の約49%、H29年度の約46%と比較しても、上昇傾向にあると言えます。ただし、1年時には、毎年ある程度多くの生徒が入部はするものの、途中で辞めてしまう生徒がいることも事実です。その結果として、年度当初の加入率が年間通して維持されるのが難しい現状にあります。途中で辞めることなく、現在も継続的に活動をしている部員は、それぞれの目標に合わせて、一生懸命取り組んでおります。

部活動に対する生徒の考え方も様々で、前向きに取り組みたいと考える生徒もいれば、「しんどいからやりたくない」、「遊びたい」というように部活動に関心がない生徒もいます。その他のさまざまな事情で、部活動をする余裕のない生徒もいます。

こういった状況の中でも、学校としては可能な限り、部活動へ参加してもらい、その活動を通して、人間的に成長して欲しいと考えています。

課題としては、部活動を前向きに捉えていない生徒に対して、部活動の良さをどのようにアピールできるのか、そして、一度入部した生徒を卒業まで続けさせるにはどうしたらよいのか、具体的なアイデアを出すことですが、これは教職員だけでなく、部員と共に考えていくべきことだと認識しています。

また、保護者の皆様に対しては、本校の部活動の様子をよりよく知っていただけるような情報発信に努めていかなければならないと思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

多くの生徒が「入りたいな」と思える部活動づくりと、部活動の良さを継続的にアピールしていくことが大切だと感じています。

初めての高校生活で迷っている新入生の背中を押してあげられるようなアプローチを引き続き考えてまいります。

また、4月の仮入部期間や個別の部活動勧誘だけでなく、年間を通して定期的に部活動参加への呼びかけを継続していきたいと考えています。部活動の情報発信についても、メルマガやホームページ、クラブのブログ等をより一層活用しながら、保護者の皆様にも部活動の様子をお伝えしていきたいと思っています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

3 教育相談・支援教育の充実

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
5	本校では保健室はもとより、「みかんルーム」(教育相談室)を設置したり、スクールカウンセラーによる相談などに取り組んでいます。あなたは、本校に悩みを相談できる場(先生や部屋)があると感じていますか。	1年	32.4%	38.7%	15.1%	13.9%	71.0%
		2年	18.9%	46.5%	18.9%	15.6%	65.4%
	(全学年 肯定的回答率平均 70.5 %)	3年	36.7%	38.3%	14.5%	10.5%	75.0%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
4	本校では、「いじめ」や「暴力」のない学校づくりに向けて、生徒が気軽に悩みを相談でき、安心して学校生活が送れるよう、保健室はもとより「みかんルーム」(生徒相談室)を設けるなど、きめ細かな教育相談体制の充実を図っています。このような取り組みは、これからさらに充実させるべきだと思いますか。	81.8%	16.6%	1.0%	0.6%	98.4%
5	お子さんの心身の健康について、連絡・相談したいことがある場合、気軽に先生に相談でき(できると思われ)ますか。	26.5%	50.9%	18.5%	4.1%	77.4%

【学校の受け止め方(分析)】

「教育相談・支援教育の充実」について、70.5%の生徒、87.9% (質問4、5の平均) の保護者の皆様が肯定的に回答しています。

教育相談・支援教育については担任や保健室を中心として、生徒が気軽に相談できる体制を築いてきました。今年度は、感染症予防対策のため、「みかんルーム(教育相談室)」の開放ができなくなりましたが、スクールカウンセラーの定期的な来校に加えて、スクールソーシャルワーカーにも来校いただき、ケース会議や個別相談を継続して実施しています。また、デートDV 予防啓発出前授業や健康教育セミナーなど、心身の健康の充実について意識を高める教育活動を行ってきたことも、生徒が心身の健康に関心を持ち、解決の手段を持つことにつながっているのではないかと感じています。

【来年度以降の指導の方向性(対応)】

基本的には、これまで同様、生徒たち一人ひとりの悩みや想いを真摯に受け止め、それぞれのケースに応じたきめ細かな対応を心がけたいと考えています。

本校の支援体制、支援に対する教職員の意識は極めて高く、安心して相談してもらえる状

況ですが、さらに、多様な課題のある生徒にしっかりと寄り添えるよう、ケース会議や職員研修、個別相談等の機会も継続して設定し、生徒一人ひとりが気軽に悩みを相談でき、一歩進んで積極的に心身の健康を増進できるスキルを身につけ、学校生活を充実したものとしていけるよう環境を整えていきたいと考えています。

今後もさらに、関係機関並びに保護者の皆様とも連携を深めながら、教育相談、支援教育の進化・充実に努めます。保護者の皆様には、今後も引き続き、お子様に関わっての悩み、お気づきのことなど、お気軽に学校までご一報いただきますよう、お願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

4 互いを認め合える集団づくり

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わな い	肯定的 回答率
6	本校では皆さんに、男女平等や性差別、障がい・障がい者に対する正しい理解など、人権に関して学ぶ機会を大切に提供していると思いますか。	1年	46.1%	41.9%	9.5%	2.5%	88.0%
		2年	31.0%	44.6%	19.8%	4.5%	75.6%
	(全学年 肯定的回答率平均 82.4 %)	3年	41.5%	42.2%	11.2%	5.0%	83.7%
7	本校では「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応してくれていると思いますか。	1年	35.4%	41.7%	13.3%	9.6%	77.1%
		2年	25.7%	53.9%	13.3%	7.1%	79.7%
	(全学年 肯定的回答率平均 78.4 %)	3年	31.3%	47.3%	16.4%	5.1%	78.5%
9	本校では、授業やLHR、講演会などの機会を通して、情報リテラシーを身に着けるような指導をしていると思いますか。	1年	36.0%	49.8%	10.0%	4.2%	85.8%
		2年	26.2%	54.1%	17.2%	2.5%	80.3%
	(全学年 肯定的回答率平均 84 %)	3年	33.2%	52.7%	10.9%	3.1%	85.9%

【学校の受け止め方（分析）】

項目6に対する肯定的回答は、1年生 88.0%、2年生 75.6%、3年生 83.7%であり、平均すると約 82.4%で昨年度よりやや向上する結果となりました。この結果は各学年で実施している人権HRの内容を生徒たちが受け入れてくれているものと考えております。しかし、依然として 2 割程度の生徒が否定的な回答をしているという課題については、今後も各学年や分掌などと協力し、人権HRのさらなる充実を図っていく必要があると考えられます。

項目7に関して、肯定的回答が1年生 77.1%、2年生 79.7%、3年生 78.5%であり、平均すると約 78.4%でこちらも昨年度よりやや向上する結果となりました。本校独自のアンケートによる実態把握や、その後の担任を中心とした丁寧な聞き取りに対して、一定の信頼は得られていると考えております。しかしながら、こちらの項目も 2 割程度の生徒が否定的な回答をしているという事実を踏まえ、全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、アンケートをより効果的なものにしていくとともに、日頃の生徒の様子に細かく目を配り、問題を見逃すことなく安心して過ごせる環境作りに努めたいと考えております。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学ぶ機会の提供につきましては、生徒が人権についてより学ぶ機会を充実させるためにホームルームや総合的な学習の時間を活用した取り組みを一層進めてまいります。また、温かい人間関係を形成するための基礎となるコミュニケーション力の向上についても、取り組んでいきたいと考えています。

「いじめ、暴力を学校は見逃さず対応しているか」については、生徒の小さな変化に気づけるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な関わりをさらに深めてまいります。本校独自のアンケートも有効に活用しながら、その兆候の早期発見・対応に努めることで、生徒から信頼され、安心して過ごせる学校となるよう努力してまいります。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
7	本校では、すべての生徒の尊厳が守られ、基本的人権が尊重されるように、LHRに人権学習を組み入れたり、いじめの実態把握のために「生活と人権に関するアンケート」を実施しています。これからも、このような取り組みを進めていくべきだと思いますか。	60.9%	36.6%	2.0%	0.5%	97.5%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的回答が 97.5%であり、本校の人権教育についての取り組みを保護者の皆様にご理解いただき、ご支持していただいたものと受け止めております。全ての生徒が安心して学校生活を送っていけるよう、今後も府教委のアンケートの「安全で安心な学校生活を過ごすために」に加えて、本校独自のアンケートを実施し、生徒の様子に細かく目を配りながら、何かあれば丁寧かつ迅速な対応に努めてまいります。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校として引き続き、いじめの防止、兆候の早期発見や対応に努めてまいります。いじめの兆候が見られる場合は、当該学年だけでなく、人権教育推進委員会や管理職などが関わり、学校全体の問題として丁寧かつ迅速に対応してまいります。また、本校独自のアンケートの内容、実施時期、回数に関しても改善に努めていき、さらに効果的なものにしていきたいと考えております。

人権HRに関しては、年間LHR計画に位置づけて全学年で実施し、生徒の発達段階に応じた、人権についての正しい知識と理解の育成に努めております。今後は、学級内での温かな人間関係づくりや生徒のコミュニケーション能力の向上をめざした取り組みも進めていきたいと考えております。

生徒に適切な人権教育を行うために、教職員が人権についての正しい知識を学び、指導力

を向上させることが求められます。そのためにも、職員人権研修をさらに充実したものにし、生徒の人権H Rに役立つものにしていきたいと考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

5 安全管理の徹底、校内美化の推進と外部機関との連携

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	肯定的 回答率
8	あなたは日頃、学校で清掃するなど校内美化に努めていますか。	1年	35.8%	52.3%	7.8%	4.1%	88.1%
		2年	22.7%	52.1%	18.2%	7.0%	74.8%
	(全学年 肯定的回答率平均 82.1 %)	3年	35.4%	48.0%	11.0%	5.5%	83.5%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
6	校内は、清掃が行き届いていると思われますか。	13.4%	60.3%	19.5%	6.8%	73.7%

【学校の受け止め方（分析）】

「校内美化の推進」について、生徒の 82.1%、保護者の 73.7%が肯定的に回答しています。今年度は、感染症予防に配慮しての清掃活動となりました。創立 71 年目を迎え、校舎設備の老朽化や水道が少ないなどの不便さもあります。そういう中で、通常清掃、清掃徹底週間、施設設備の安全点検、生徒保健委員による学校環境美化啓発活動等を継続して行ってきました。今年度も事務室技術職員や教員の校内清掃活動も頻繁に行ってきました。安全点検で所見があった箇所については、速やかに対応しています。これらの取り組みを通して、学校施設設備環境に一定の改善はあったものと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

校舎設備老朽化の改善については、府教育庁に引き続き計画的な整備を要望し、着実に整備していきたいと考えています。

同時に、生徒・教職員の一人ひとりが「自分の学校・母校」という気持ちで清掃に取り組むことが、「古いけれど、手入れの行き届いた清潔な学校」につながると考えています。自らの学習環境を清潔に保つことは、将来の社会生活を行う上でも大切です。今後も様々な活動を工夫して「汚さない！ 汚れやゴミには対処する！」という美化意識の定着に向けて、継続して指導していきたいと考えています。

清掃の行き届いた環境で学校生活を送る喜びを生徒が感じられるよう、粘り強く取り組

んでまいります。保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

6	授業アンケートの活用と授業見学週間の定着
7	授業規範の確立と授業マナーの向上

■生徒へのアンケート

質問		学年	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	肯定的 回答率
10	先生は、生徒の授業中の私語や勝手な行動を見逃さずにきっちりと注意していると思いますか。	1年	33.2%	43.2%	15.2%	8.4%	76.4%
		2年	24.7%	46.9%	17.3%	11.1%	71.6%
	(全学年 肯定的回答率平均 75.2 %)	3年	33.5%	44.2%	17.1%	5.2%	77.7%
11	あなたは、授業中に私語や勝手な行動をすることなく集中して受けられていますか。	1年	53.2%	38.1%	5.6%	3.2%	91.3%
		2年	37.5%	40.8%	15.4%	6.3%	78.3%
	(全学年 肯定的回答率平均 85.9 %)	3年	42.9%	45.3%	9.4%	2.4%	88.2%
12	本校のカリキュラム(授業科目の配置等)は、進路希望に応じて、コースや選択科目が選べるように配慮されていると思いますか。	1年	54.7%	40.4%	4.1%	0.8%	95.1%
		2年	43.6%	49.8%	5.3%	1.2%	93.4%
	(全学年 肯定的回答率平均 90.5 %)	3年	41.4%	41.4%	13.9%	3.2%	82.9%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
10	本校では、年間2回(8月・12月)すべての教員を対象とした授業アンケートの結果分析や振り返り、また、教員間の授業見学などを通じて、学校全体として授業改善に取り組んでいます。これらの取り組みに	57.9%	37.6%	3.8%	0.7%	95.5%
11	お子さんは、本校の授業内					5.5%
12	本校のカリキュラム(授業科目の配置等)は、進路希望に応じて、コースや選択科目が選べるように配慮されていると思いますか。					0.0%
先生は、生徒の授業中の私語や勝手な行動を見逃さずにきっちりと注意していると思いますか。						
(全学年 肯定的回答率平均 75.2 %)						

【学校の受け止め方(分析)】

8割弱程度の生徒が「先生は生徒の授業中の私語や勝手な行動を見逃さずにきっちりと注意していると思いますか」と捉えてくれていますが、一方で、全学年を通じて約2割強の生徒が「授業中に生徒への注意をしていない」と否定的な回答をしています。高校生活の基本は授業であり、どの学年・どの授業であっても授業規律が保たれている状態が望ましく、生徒の皆さんの意見は重く受け止めています。

また、約3割弱の保護者の皆様がお子さんは吹田高校の授業に満足していないと感じら

れていることが分かります。

一般的に、高校での授業はただ単純に楽しいだけのものではなく、充実感や達成感を得るためには生徒自身の努力が必要ですが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

そのため、教員の授業力の向上に向けては、質問 10 にあるような取り組みを実施し、精力的に授業改善に努めています。

しかしながら、少なくない皆さんから否定的な回答をいただいたことは、あらためて学校として真摯に受け止め、授業に興味をもたせる一層の工夫や、学習に対して不安がある生徒に対するさらなるケアが必要だと認識しており、早急に改善を図りたいと思います。

教育課程に関しては、どの学年においても 9 割以上の生徒がカリキュラムに満足していると捉えることができます。また、保護者の皆様におかれましても 9 割弱の方がカリキュラムに満足していると回答していただいております。一方で、カリキュラムと進路希望が結びついていないというご意見も少なからずございます。これらのご意見を真摯に受け止め、より良い教育課程を作り上げていくように尽力いたします。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

生徒の皆さんに一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

今回の結果を踏まえ、すべての教員が自らの授業技術を磨く必要性をさらに強く自覚し、1つ1つ丁寧に取り組むことで総合的な授業力の向上に努めてまいります。また、科目や教科単位で年間の到達目標や評価規準を明確にし、生徒がめざす資質・能力を示すことで、計画的に授業を実施していく所存です。

一方で、授業はまさに教員と生徒の共同作業であり、お互いが求められる役割と責任を果たすことで初めて「よい授業、興味が持て、分かる授業」が成立します。

授業規律の確立について、生徒の皆さんに自身の行動を見直すこと、必要な予習や復習をすることなどを、学校としても強く求めていきたいと考えています。

保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、生徒が、学ぶこと、新たな知識を得ることの楽しさと大切さに気づくことができる授業やカリキュラム作成に、引き続き学校をあげて取り組んでいきたいと思っています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

8 三年間を見据えた系統的な進路指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	肯定的 回答率
13	本校で提供している進路に関する情報や進路ホーム ルームは、あなたが将来の進路を考えるうえで役 立っていると思いますか。	1年	47.6%	40.4%	8.8%	3.2%	88.0%
		2年	26.3%	55.6%	11.9%	6.2%	81.9%
	(全学年 肯定的回答率平均 84.3 %)	3年	36.9%	46.0%	12.3%	4.8%	82.9%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

	質問	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
13	本校では、お子さんの進路実現に役立つ情報提供が適切に行われていると思われますか。	17.9%	59.0%	19.0%	4.1%	76.9%
14	本校では、お子さんの学力向上のための講習などが適切に行われていると思われますか。	14.8%	56.9%	23.3%	5.1%	71.6%

【学校の受け止め方（分析）】

「進路情報の提供」について、約 75～80%の生徒と保護者の皆様が肯定的に回答しており、進路H Rや各種ガイダンス、進路ニュース等の内容の充実にも努めてきた成果が一定程度表れているものと受け止めています。今年度は各学年の「保護者進路説明会」をオンラインでも実施した効果が出ていますと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

進路指導の充実に向け、お子様の入学から卒業までの 3 年間を見通した「吹田進路プログラム」の内容をさらに充実させ、科目選択説明会、進路H R、保護者説明会等の日程設定や順序にも留意するとともに、進路H Rの内容の充実にも努めてまいります。

「進路に役立つ情報提供」のため、これまでも発行してきた「進路ニュース」を引き続き発行してまいります。

また、「進路検討会議」を定期的に行うとともにその内容の充実にも努め、進路実現の妨げとなる諸問題（経済面、健康面等）の早期の掘り起こしに努めます。進路指導部・担任団に加え、副担任も含めた全教職員で迅速に対応し、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導をさらに進めてまいります。

9 その他

【アンケート項目と集計結果】

■生徒へのアンケート

	質問	学年	そう思う	どちらか といえば そう 思う	どちらか といえば そう 思わない	そう思わ ない	肯定的 回答率
14	先生は、自分たちのために一生懸命に指導してくれていると思いますか。	1年	46.7%	44.2%	5.0%	4.2%	90.8%
		2年	35.7%	48.3%	10.9%	5.0%	84.0%
		3年	40.1%	47.2%	8.7%	4.0%	87.3%
	（全学年 肯定的回答率平均 87.4 %）						

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的 回答率
15	本校教職員は生徒のために、一生懸命に指導をしていると思われませんか。	26.8%	58.3%	12.2%	2.7%	85.2%

【学校の受け止め方（分析）】

教職員の指導に対して、生徒・保護者とも8割以上の肯定的な回答をいただいておりますが、一方では6～7名のうち1名の割合で本校教職員の指導に対して理解が得られていないと感じておられます。生徒・保護者に十分に理解を得られるように、教職員が生徒個々の特性をより深く理解し、人格のより良い発達をめざした適切な指導・援助に対して下記の2点について改善を検討する必要があります。

① 日常的な指導において、全教職員の共通理解のもと、生徒と教職員の相互信頼という基盤を築きながら、校内のルールやマナー、基本的生活態度（時間・服装・挨拶・言葉遣い）を全教員で粘り強い指導をめざすこと。

② 生徒個々の特性を生かしながら、協働の集団や社会の構成員として適した資質や態度・能力の発達を図り、学校だけでなく様々な生活の中で強く正しく生きる態度や能力の発達を助成するため、具体的場面に即した指導をめざすこと。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

社会の移り変わりに伴い、教育課題もますます多様化・複雑化していく中で、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、道徳的な心情を育て、判断力・実践意欲を持たせるなど、道徳性を養うことが不可欠となっています。

今後とも、保護者・地域の皆様からのご意見やご要望をさらに真摯に受け止め、教職員が一丸となって教育活動に専心してまいります。お子様への指導に疑問やご質問がございましたら、小さなことでも結構ですので、お気軽に頂ければ幸いです。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	肯定的 回答率
15	あなたは、学校からの連絡を保護者にきちんと伝えていますか。	1年	47.3%	39.0%	10.0%	3.7%	86.3%
		2年	32.8%	42.0%	19.3%	5.9%	74.8%
	(全学年 肯定的回答率平均 82.5 %)	3年	43.1%	43.1%	10.6%	3.1%	86.3%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的 回答率
16	ご家庭では、お子さんと学校での出来事などについて話をされますか。	37.6%	40.2%	16.7%	5.5%	77.8%

【学校の受け止め方（分析）】

学校での出来事や連絡事項について、4名中3名の割合で保護者の方と生徒が家庭で話をされていると回答しています。「思春期」になると、ご家庭でほとんど話さなくなる生徒が多くなります。特に男子生徒はその傾向が強くなります。生徒たちが自立していく過程では、保護者への依存度は徐々に下がっていくことが自然であると言えますが、各ご家庭におかれましては「過保護」でもなく「放任」でもなく、「付かず、離れず、さりげない」関わり方を心がけていただければ幸いです。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
17	懇談会、進路説明会などの学校行事に参加されていますか。	22.4%	42.7%	23.5%	11.4%	65.1%

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で文化祭は開催できず、また体育祭は学年ごとの分散開催となり、保護者の方々に学校へお越しいただく機会が大幅に減少しました。入学式や授業見学、学年別の進路説明会等も開催できず、学校行事に参加する機会は担任との三者面談のみであった方も多くおられます。6月の学校再開以降も度重なる臨時休校により、学校からの連絡もホームページやTwitter等で行うことが多く、学校の様子が分かりにくいというご意見も多数いただきました。一方で学校行事が思うように実施できず、定期考査をはじめ様々な日程が変更となりましたが、昨今の社会情勢を含め、学校の対応へのご理解、ご協力いただき、また、多くの保護者の方から学校に対する励ましのお言葉を頂戴いたしました。令和3年度になっても新型コロナウイルス感染症に関する状況は不透明ですが、引き続き、本校の教育活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
19	学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通(意見や要望を聞く機会)をきめ細かく行っていると思われますか。	13.2%	54.7%	25.5%	6.6%	67.9%

学校から各ご家庭への連絡や保護者の皆様との意思疎通につきましても、3名中2名の割合で、きめ細かく行われているというご回答をいただきました。より多くの生徒・保護者の方に学校の様子や行事予定・緊急連絡等をご覧いただけるようホームページやTwitterを開設しております。また、毎週末にメールマガジンにて、今後の学校行事の予定・時間割変更や、学年からの連絡事項や配布物について情報を配信させていただいております。

現在、無断欠席、各種指導、学校内での怪我や成績など生徒に何かあった際には保護者の皆様に連絡することを徹底しており、日頃より連携を大切にしていきたいと考えています。今後もホームページやメールマガジン、Twitterを活用した情報提供を充実させていきます

ので、引き続き、ぜひ忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

<生徒 15、保護者 16,17,19 について>

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

学校といたしましても、学校での教育活動に、より一層保護者の皆様のご理解・ご協力を賜るため、進路指導、教科指導、テスト、行事等の情報提供をさらにきめ細かく行い、相互の意思疎通を丁寧に行ってまいりたいと思います。保護者の方で疑問や質問がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者の方々に学校へお越しいただけない状況が続くことが予想されますが、学校にお越しいただけるときは、実際に生徒たちが活動している様子をご覧いただければ幸いです。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
20	本校では、朝の挨拶運動以外にも、保育園・幼稚園をはじめ、クラブ活動で中学校と、また吹田市立博物館などの地域施設や大学などとの連携を積極的に図り、「開かれた学校づくり」をめざした取組みに努めています。このような取組みは、今後さらに充実させたほうがよいと思われますか。	63.3%	33.0%	3.0%	0.8%	96.2%

【学校の受け止め方（分析）】

開かれた学校づくりをめざした吹田高校の現在の取り組みに対して、今年度も 95%を超える保護者の皆様から肯定的な回答をいただきました。吹田高校は開校以来、地域に愛され、地域に開かれた学校をめざして教育活動を展開してまいりました。特にここ数年は、その取り組みを強めています。

しかしながら、令和 2 年度はコロナ禍において、近隣の大学や中学校等の教育施設との交流を検討・企画してまいりましたが、緊急事態宣言により大人数での開催・屋内での開催が延期・中止になる場合が多く、数年続いていた吹田市立の博物館との「高博連携」等も実施できませんでした。

集合形式での地域連携ができない状況の中、オンラインによる校内教職員研修や学習塾主催の個別相談会、また校内放送と動画による生徒人権研修等、新たな実施形態による取り組みも行うことができたことは、次年度以降に向けてのプラス材料として捉えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

新型コロナウイルス感染症の影響により、集合形式での地域連携ができない状況が続く

ことが予想されますが、地域との連携についてオンラインや動画による実施形態の検討を重ね、本校生徒に対する教育活動だけではなく、今後も地域の教育機関と連携を取り、ご理解とご協力を得たいと考えております。

「地育地活」の言葉通り、吹田で育てていただいた吹高生が、将来は地元吹田で地域のために活躍できるようにしっかりと取り組み、また、吹田高校の生徒全員がこのような意識を持ち、開かれた学校づくりの主人公になれるように取り組みを充実させてまいります。

■生徒へのアンケート

質問		学年	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	肯定的 回答率
16	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	1年	46.1%	35.0%	9.1%	9.9%	81.1%
		2年	30.5%	39.3%	14.2%	15.9%	69.9%
	(全学年 肯定的回答率平均 75.9 %)	3年	37.1%	39.8%	12.0%	11.2%	76.9%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
21	お子さんは、学校が楽しいと言っていますか。	33.8%	38.3%	21.5%	6.4%	72.1%

【学校の受け止め方（分析）】

学校が「楽しいですか」という、少し抽象的な質問でしたが、生徒、保護者の皆様とも7割以上の方が「学校が楽しい（と言っている）」という回答でした。一方で、2～3割の生徒が「(どちらかといえば) そうではない」という回答結果でもあります。この割合は昨年に比べて残念ながらあまり変わっていません。

「何か具体的に楽しくない原因がある」「他に楽しい居場所がある」「家庭では、あまり学校のことは話題にならない」等、様々なケースがあると考えられますが、「楽しくない」「居場所がない」学校に毎日通わなければならない状況に陥っているとすれば、日々の学校生活を送ることが非常に困難であると考えます。とりわけ、具体的な原因がある場合には、生徒本人から、または保護者の方から、担任やクラブ顧問など話しかけやすい教員にお気軽に相談していただければ幸いです。また、保健室横に「みかんルーム」という相談室を設置しておりますので、友達には話せないこと、悩みごとがあれば遠慮なく利用していただければと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

ともすれば、社会全体として、刹那的な「その場限りの楽しさ」を求めがちな風潮もある中で、学校としては、ぶれることなく「授業が分かり、学習することに充実感があること、学校行事に積極的に取り組み達成感があること、部活動に一生懸命に打ち込み、一体感や爽快感が感じられること、友だちとの人間関係において温かみを感じ、友情を深めること等、

これらのことを実現して『学校が楽しい』ものとなる」というメッセージを、生徒たちに発信し続けていきたいと思います。

学校には、様々な困難や事情を抱えた生徒もありますが、高校生という多感な時期に、学校という場だからこそ学び、身につけることができる、人生の中でも貴重な経験・体験を何よりも大切にできるよう、すべての一人ひとりの生徒がまっすぐに学校生活に取り組んでもらいたいと思います。

全教職員で、今回の学校教育自己診断でいただきました様々なご意見を今後の教科指導、生徒指導、進路指導、学校行事、部活動、教育相談等、すべての学校での取り組みに活かし、一致協力して「計画」の完全達成をめざして日々の指導に取り組み、生徒・保護者の皆様の本質的な意味での満足度をさらに向上させるべく努力してまいります。

今後とも、吹田高校の取り組みに対しまして、引き続き深いご理解とご協力をお願いいたします。